

# やまゆり

学校だより

令和5年8年月24日  
34号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一  
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級づくり」

## 再開を喜び、決意を新たにす二学期のスタート

32日間の夏休みを終え、昨日「始業式」を行いました。一人一人の生徒が、大きな事故や怪我もなく再び元気に再会できたことを心から喜びたいと思います。

二学期は一年で一番長く、成長が最も期待される学期です。9月3日(日)には、道の駅での太鼓の演奏や道志村の特産物の紹介・交通安全等の啓発活動を予定しています。その後、9月9日(土)・10日(日)には若鮎祭があり、10月3日(火)には3年生の進路について考える検査を実施し、10月18日(水)には公開研究会を計画しています。1・2年生には新人戦もあります。

一人一人が自らの目標をしっかりと持ち、願いを達成するための努力をしてほしいと思います。教職員も「社会に貢献しながら自立する生徒」に育成することを願い、一丸となって生徒の健全育成に努めたいと思います。保護者の皆様にも、引き続きご理解とご協力を頂きたいと思います。

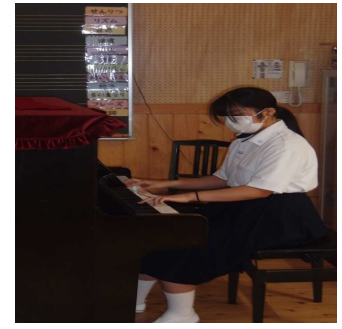
始業式の生徒の様子



校歌斉唱



最後の伴奏 <sup>さくら</sup> 桜愛さん



※ 1年生代表予定の生徒は体調不良で発表できませんでした。  
2年 杏奈さん

3年 嶺さん

生徒指導主事 三浦先生



計画を立てて自分のペースで学習できた。相談もできた。一人一人を大切に協力していきたい。



リーダーとして物事を推進する大変さを学んだ。不満は口に出し、建設的に解決していきたい。



2学期の一人一人の成長を願い、目標をもち自分の努力や力を信じて自己実現してほしい。

### 始業式にあたり校長から

- 1 高校野球から学ぶ ①尊重(仲間・相手・審判・ルール) ②挑戦(失敗を恐れない) ③覚悟をもつ(過程を大切に全力で努力し、結果は受け入れる)
- 2 教育課題に立ち向かう ①多様性への対応 ②熱中症 ③コロナ ④限られた時間

学校教育目標重点 「居心地良く、やる気のある学級づくり」

## 生徒会執行部の企画で「全校集会」を実施しました

二学期に「生徒同士が安心して発言し、親和的に活動できる」ように、昨日生徒会執行部がサイコロ・トークで触れ合う「全校集会」を企画・実施しました。

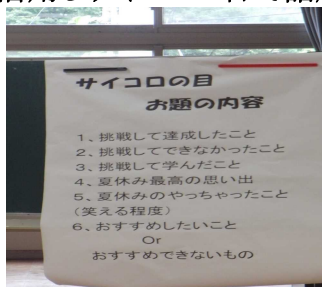
縦割り班の3つのグループに分かれ、夏休みの自分の体験をグループの中で自己開示しながら語り、それを否定しないで聞いてもらえる体験を通してお互いの心を解放し、親和的な人間関係を構築するために実施しました。

目的達成のためのポイントは、「自分の思いや感情を伝えるように話す。そして、聞き手はうなずきと表情の工夫、もっと聞きたいことに質問する」等でした。 ※とても大切な項目を提示

企画した生徒会執行部



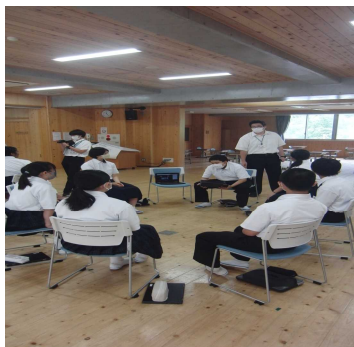
ICTを活用しサイコロの目で話題決定



大きな成果

- 1 自己開示を目指した全校集会の企画自体が素晴らしい
- 2 個人的・集団への寄与等の成長の確認
- 3 課題が明確になった

3つの縦割り班で活動している様子



以下の点について「問い直し」、その問い直しを「皆で問い直し」しましょう

- 1 始業式の日、自分の思いを自己開示する活動で、親和的関係を構築する活動をしている実態から、一人一人の表現する意欲や力、人間関係について問い直してみましょう。
- 2 生徒会執行部の課題の提起に対して、一人一人の生徒がサイコロトークの目的を達成するための努力をどのように自分なりにできたのか、また、縦割り班の実力や現状を問い直してみましょう。
- 3 昨日の縦割り班での表現活動や集団の力は、今後の若鮎祭や10月の学習公開にどのようにつながるのか問い直してみましょう。

学校教育目標重点 「確かな学力の育成」・「豊かな心の育成」

## 第45回「少年の主張山梨県大会」で山本千莉<sup>せんり</sup>さんが入賞しました

8月19日(土)に甲府市の青少年センターで、「第45回少年の主張山梨県大会」が行われ、3年生の山本千莉<sup>せんり</sup>さんが「青少年育成山梨県民会議会長賞」を頂きました。

この大会には、県下15校から423名の参加があり、7月の事前審査で10名が選出されました。千莉さんは見事にこの10名の中選ばれ、大会に出場しました。夏休み中も国語科の天野美加先生が熱心に指導し、千莉さんの努力によって表彰されました。

発表内容は「身近な平和を三助法で創る」という題で、いじめを自分たち生徒の問題として捉え、自助・共助・公助によって全国の児童・生徒の心身を守るという内容です。

昨年、文部科学省主催の「全国いじめ問題子供サミット」に生徒会役員として参加した経験や本校のいじめ対応の実践経験を少年の主張として山梨県全体に発信してくれました。

「思いを伝える」素晴らしい発表に、多くの方々が感銘していました。

千莉さんの発表の様子



受賞した生徒と記念撮影



審査員・発表生徒全員で記念撮影



受賞した賞状と盾



## 少年の主張山梨県大会に審査委員長として参加し「講評」をしました

第45回「少年の主張山梨県大会」の審査員長の道志村立道志中学校校長の杉本賢二と申します。大会を主催する公益財団法人山梨県青少年協会、並びに青少年育成山梨県民会議実行員会、独立行政法人国立青少年教育振興機構の皆様のご尽力により、対面形式で大会を実施できましたことに心より感謝申し上げます。

今大会は、少子高齢化、グローバル化、情報化等の国際的な環境が大きく変化する先行き不透明な社会において、心身共に健康で他者を尊重し、協働しながらより良い社会を創造する力を育むことを目指しています。また、広い視野と柔軟な発想とともに論理的思考や表現力など自分の思いを伝える情熱と工夫の向上を願って開催しました。

生成AIの飛躍的な向上が話題になる中、共生や平和等のより良い人間の生き方や社会を「創造」することは、人間にしかできない極めて重要な活動です。このような趣旨を理解し、県下15校から423名が意欲的に参加して下さり、一次審査により8月19日の県大会に10名が選出され、各自の主張を発表しました。

表現において大事なことは、まず「何を主張するのか」です。その題名と主張の内容を発表順に紹介すると、心を添えて・「相手の立場に立った思いやりある接し方」、八十五年後の世界記録・「多面的・多角的で柔軟な思考で新たな目標をもって生きる」、CROSSの意味・「勇気をもって人と交わり新しい世界を創造する」、ルービックキューブを揃えるために・「人間理解を深め差別のない世界を創る」、私の大切な一票・「一票の重みを理解し、投票方法を工夫する」、「きょうだい児」のわたしにしかできないことを・「お互いに手を取り合いながら最善の行動を取る」、小さな気づきが未来を変える・「言葉に表れる認識の重要性に気づき生かす」、生きる・「助けての声」を必ず受け止める」、身近な平和を三助法で創る・「いじめを自分たちの問題として捉え改善する」、優しさのバトンをつなぐ・「一人一人がお互いを気遣い尊重する」等でした。

どの主張も、発表者ならではの切実な思いであり、主張を伝えるための言葉の遣い方や構成、抑揚等の音声表現の工夫も見事でした。今後は、主張をひと言で表現する「題名の付け方」や、「間」の使い方を工夫するとさらにより良く伝わると思います。

審査では、7名の審査員が厳正に審議しました。その結果、今回は「渡邊峰柊」さんの「「きょうだい児」のわたしにしかできないことを」が最優秀賞に選出されました。「渡邊」さんの主張は、心を見つめ、中学生らしい新鮮な主張で多くの審査委員の共感を得、実現への情熱や表現力が高く評価されました。関東大会でのさらなる活躍を期待します。

最後に、予測困難な時代を切り開くには、人間の強みを生かした「創造力」が不可欠です。その意味で「少年の主張山梨県大会」に参加した423名の中学生の皆さん一人一人と指導をして下さった先生方、保護者の皆様、そして大会関係者の皆様に心より御礼を申し上げ講評といたします。